



GLOBAL MAPPING NEWSLETTER 37

エジプト測量局訪問

ISCGM 事務局

国土地理院環境地理情報企画官

佐々木 久和



エジプト測量局

来る4月のISCGM第12回会合の準備として、2月15日にISCGM元事務局長の永井信夫氏と筆者がエジプト測量局を訪問し、局長のヒーシャム・モハンマド・ナスル氏と会見しました。本年1月に就任した国土地理院の矢口彰新院長の親書を手渡し、地球地図プロジェクトへの参加意思の確認とISCGM会合への出席の依頼を行い、了解を得ました。

エジプトは、四大古代文明発祥の地の1つであり、また、測量史上も、ピラミッド建築に代表されるようにきわめて古い時代から、大きな足跡を残していることは皆さんよくご存知の通りです。

現在のエジプト測量局は水資源灌漑省傘下にある職員数1万人を超える組織で、エジプトの公的測量機関として、基準点測量から空中写真図化、現地調査、製図、印刷といった空中写真撮影（リモートセンシング局）以外のすべての測

量工程を実施することができ、大縮尺（1/500）から小縮尺（1/1,000,000）までの各種の地図を政府、地方政府の各部局の要請に基づいて作成しているとのことです。作業の比率としては、地籍測量が多く、職員の約80%が地籍測量関係の仕事に従事しており、出先機関が国内26カ所に設置されているそうです。見学した地図作製の現場は、工程の多くが数値化され、近代的な作業環境となっており、リモートセンシング画像、オルソ空中写真



作業中の職員

画像を利用し地図修正を行っている部署などを見学しました。

この紙面を借りて、ナスル局長や測量局職員の暖かい歓迎に心からお礼を申し上げます。



ナスル局長（右から2人目）

地球地図と防災－復興に向けて

スリランカ測量局長

B. J. P. メンデイス

Tsunami Disaster – Districts Affected
Situation as at 02nd Feb 2005

数は 548,931 名です。

津波は、合計 25 の行政区のうち 14 地域の 68 箇所の三次レベルの行政区を襲いました。不動産への被害は 10 億米ドルにのぼると推定され、その大部分は家屋、漁業、観光、交通と通信に集中しています。復旧や再建事業を効果的に行うためには、15 万米ドルが必要であると見積られます。

津波の襲来は、救援活動関係者や復興・再建事業関係者への情報提供という、我々国家地図作成機関に困難であるが立ち向かわべき課題をもたらしました。この大津波により地理情報には無関心であった人々が、その重要性を十分に理解するきっかけになった時もありました。

地球地図は防災や復旧にどのよう

災害の概要

インドネシア・スマトラ島の西方沖の地震によって起こり、2004 年 12 月 26 日にスリランカの沿岸を前例を見ない形で襲った津波は、自然災害としては有史以来最悪のものでした。津波は沿岸地帯のほぼ 3 分の 2 にあたる北側の一部、東側・南側の全体と西側の一部を襲いました。津波の影響は場所により異なりますが、特に東側の平地では内陸側に 2、3 キロにまで及びました。公式情報によると、死者 30,974 名、行方不明者は 4,698 名となっています。負傷者は 23,176 名、家屋を失い避難所や親戚に身を寄せている人の

に貢献できるか

2004 年 12 月 26 日の津波の被害は、南アジア地域、特にインドネシアからモルディブに至る多くの国々で見られ、これらの国々の地理情報に変化を加えたこととなります。地球地図プロジェクトは地球環境の現状を把握するための全球陸域の基盤データを整備するプロジェクトであり、そのため、地球地図は津波による環境への影響を評価するために用いることができます。

地球地図プロジェクトへの期待

津波によって地球地図への多くの新たな期待の



B. J. P. メンディス局長

道が拓かれました。地球地図整備は、地球環境に直接関連する植生や土地利用など、多くの

データ・レイヤーを扱い、統一仕様に基づいているため、全球の環境問題解決の有効な手段であることは知られています。

地球地図プロジェクトは、政府、市民社会や民間など、国家や国際機関と協力し、その活動を統合するためのさらなる努力をしなければなりません。地球地図プロジェクトは大縮尺の適合性について検討し、さまざまな縮尺を参照できるよう大縮尺データを既存の地球地図の枠組みに統合可能とすることを参加機関に働きかける必要があります。

GEOSS のための 10 年実施計画が EOS - III で採択された

ISCGM 事務局長

丸山 弘通



ベルギー・ブリュッセルの
NGI/IGN での会合

ベルギー・ブリュッセルにおける EOS - III

第3回地球観測サミット(EOS - III)は、2005年2月16日にベルギー・ブリュッセルにおいて、50を超える国々やISCGMなど30国際機関の代表の参加により開催されました。2003年7月30日に行われたEOS - Iの後、「複数システムからなる全球地球観測システム(GEOSS)」についてきわめて集中的な議論がなされ、最終的に10年実施計画が本サミットにおいて採択されました。また、GEOSS10年実施計画参考文書に言及する文章を含むEOS-III決議や2004年12月26日にインド洋沿岸を襲った津波に関するコミュニケが採択されました。これらの文書は、参考文書

を含めてGEOのウェブ・サイト(<http://earthobservations.org/>)に掲載されています。EOS - IIIの開催日と時を同じくして京都プロトコルが発効されました。そのため各国の多くの代表が京都プロトコルに関係づけてGEOSSの重要性を述べました。

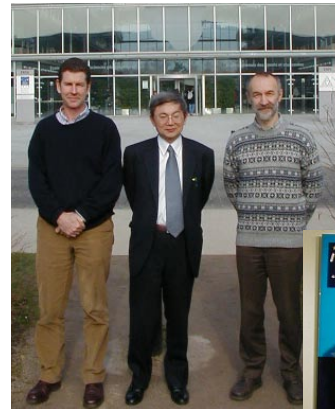
また、EOS-IIIに先立ち、EOSの作業部会の役目を果たす第6回地球観測に関する政府間作業部会会合がブリュッセルにおいて2005年2月14日～15日に開催されました。本会合には、約60カ国および40国際機関から300名を越す参加者がありました。EOS-IIIで採択された3種類の文書は2日間にわたる非常に熱心な審議によりついに準備することができました。地理情報関係機関としてGSDI、ISPRSおよびOGCの3機関がGEOに新たに加わったことが注目されます。

EOS-IIIにおいて、GEOは実施計画に従ってGEOSSを実施するための制度的な枠組みとして、これまでの臨時的な部会から正式な部会に変更

されることが決議されました。第1回 GEO 会合は、2005 年 5 月に GEO の新事務局が置かれることになるジュネーブで開催される予定です。地理情報や地球地図に関する多くの記述が実施計画やその参考文書に記載されているため、ISCGM は引き続き活発に GEO の活動に参加する所存です。

ブリュッセルを訪問した機会を利用して、ブリュッセルにあるベルギー国土地院 (NGI/IGN)、パリのユーロジオグラフィクスおよびフランス国土地院 (IGN) を訪問しました。これら三機関において、プロジェクトへの参加や地球地図の利用の促進といった地球地図の促進に関するさまざまな課題について会合を持ちました。NGI/IGN のイングリッド・ヴァンデン・ヴェルゲ院長、ジャン・

テアトロ氏、ユーロジオグラフィクスのニック・ランド氏やクロード・ルゼ氏、IGN のジャン・ミシェル・ナタフ氏の歓待と熱心な討議に感謝します。



ユーロジオグラフィクスが入居する建物の正面にて



IGN での会合

ISCGM事務局からのお知らせ

ISCGM ホームページをリニューアルしました。各種情報を提供していきますので、www.iscgm.org をよろしくお願ひします。

新たに 4 カ国が地球地図プロジェクトに参加しました。アゼルバイジャン共和国 (2 月 9 日)、アルメニア (2 月 17 日)、赤道ギニア (2 月 18 日)、コンゴ民主共和国 (3 月 9 日)。現在のプロジェクト参加国・地域は 141 です。

地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2005 年

- 4 月 16 日～21 日、エジプト、カイロ
FIG ワーキングウィーク 2005 及び GSDI8
- 4 月 17 日、21 日、エジプト、カイロ
第 12 回 ISCGM 会合及び地球地図セッション
- 5 月 2 日～4 日、スイス、ジュネーブ
GEO - 1

- 6 月 27 日～7 月 1 日、ニューヨーク
UNRCC Americas
- 7 月 3 日～6 日、イギリス、サザンプトン
CC: The exchange
<http://www.ordnancesurvey.co.uk/oswebsite/nmonetwork>
- 7 月 9 日～16 日、スペイン、ラコルニャ
第 22 回 ICA 国際地図学協会会議

編集・発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305 - 0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地院

Tel: 029 - 864 - 6910 Fax: 029 - 864 - 6923

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: sec@iscgm.org